【大正十年四月二十二日第三種郵便物認可】　昭和四年一月三十一日　磐城新聞　〔木曜日〕　第二千四百四十九號　（一）

（三十日夕刊）
磐城新聞

休刊　大祭日　第一第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢〕
廣告料〔二行平均　指定廿錢増〕
發行兼編輯印刷人　逆沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五八四番

藝術の冒瀆者へ（上）

片寄耽二

先日の丘番緒なる著の磐城文壇を笑ふ。の一文、讀んで失笑を禁じ得ない。無軌道に就いては松本君が書いてたるから僕は詩南車を編輯者の立場として書いておく。

君はマルクスボーイの一人と思ふが其にそのマルクス主義を理解あつての運動ならともかく、文藝戰線や戰旗あたりの煽動記事に他愛もなく丸められてマルクスボーイ、天下にドンキホーテ吾れ一人は、た可笑しさを越えてヘド吐きたくなる。

大人ないけれどあの文に對して二三反駁して置く

第一に君はプロレタリア正義を彼等に賣拂ひ云々と論難してたられるがそれは自解のしからしめる所であつて甚だ滑稽千萬である。

僕等即ち詩南車は何もプロレタリア文學標榜して創刊ではない。プロレタリア階級文學そんな狹量的な生産なのではないまつと廣汎なものである。僕等は單なる藝術信奉者に過ぎぬ。勿論ブルヂョア藝術の支持者でもなければプロレタリア藝術の排擊者でもない。されどブルヂョア藝術を倒しその跡にプロレタリア藝術の專制時代を移植しやうとは孝ひでならぬ、唯々一つの美の探究者である。

今迄でプロレタリア文學作品として詩南車に投稿された作品に就いて見ると、眞に明確なるプロ階級的意識、目的意識を以つて書かれておる作品は一つもなく單に個人主義的な反逆精神インテリゲンチャへの空想的反逆なもので、眞にプロレタリア、イデオロギーを把握した作品は皆無であつた。

その理由の下に斷然左翼患者の盲動、浮薄を排斥したのである。その內の一人として君が存在するならば此れ以上の議論は無用である。

第二は自己を經濟的危險區域の圏外に置き云々に就いてゝあるが、凡そ同人雜誌を經營するには、現在のやうにマルキストの言ひ草ぢやないが、經濟の基調となつており、世智辛い世の中に同人組織の雜誌の經濟的危險は必らず遲かれ早かれ現出するものである。無い袖を振つてまで多額の金を出して同人が續けて行くものゝそこには限りあるもので永續性。　。そこにおいて必然廣告料加算の收入を目的とする特種的な經濟的維持費が必要となつて現はれるのである。

そこを、單なる排擊せられた事により、同人雜誌の編輯方針、目的、內容、思想的傾向、經濟的雜誌方法（具體的に云ひば、金を出す者は凡ゆる老若男女凡ゆる人間を直に同人とする事）を觀察する事が出來得ず輕々しく論斷を下す事は、輕排、浮薄、輕擧、妄動の甚だしいものである

明日の吉凶
舊曆十二月二十一日
新曆一月三十一日

▲一白の人希望は逢せらるれど失費は有りと知るべし▲二黒の人共同事業に手を出す時は意外の損失を招く▲三碧の人取引き交際に心を配り拔目なく働くが吉し▲四綠の人大望を企つるよりも整理するが勝なるべし▲五黄の人大石道路を塞がば廻りて通れ退は一日の損▲六白の人先かにのみ走りて跡の始末を忘れぬ樣すべし▲七赤の人物事水引くとも必ず緩めず勵めば必ず成る▲八白の人生業は思ひの外吉けれども投機には大凶日▲九紫の人心を大海の如くし小故を捨て大勢に從べし

民謠漫談（二）

抱夢生

五十名近くの海軍々樂士が奏するドナウ河畔を私は熱心に聽き恍れて居つたとする、曲は次ぎ次ぎと別な曲に替つて行く、ポロネーズワルツとなりドンガルコとなりポルテイチとなり更にボヘミアンの少女となり歌劇カルメンと移つて行くヴイオリンを初めとしサキサホン、コールネツト、クラリオネツト、ピツコロ、フリユート、シンバル、サイドドラム、トライアングル、カスタネツト、に至るまで絃樂器、管樂器、異鈴樂器凡そ十有八種の樂單は散りの如く玉の如く流れの如く各特有の音を發揮してゐた、此のやうな大音樂の旋律には進軍、舞踏、機械怒濤、流水、希望、得意、壯嚴、華麗、驕奢、歡樂失望、苦限、追想、悲憤、叫喚、初戀、失戀、夢幻、空想等の響を充分に傳へて居た然し斯うした管絃樂は波の華麗なるモンマルトルの圓舞や揶子の實流るゝ白亞並ぶ南國の港の曙、紅の灯流るゝベネチアの夜の景或は十字軍の進軍バビロン落城、或は渦卷く波が巖嚙むローレライの轟を想はしむるに充分であるが蘆花先生の所謂『哀しき樂器は涙よりして人を慰む、一片街頭の音吾が腸を寸斷するに若かざるなり』と云はれた如く、私をして麗しい涙を流す流るゝの境には何うしても成り得ないのである

私は斯る歌劇といふものの序曲といふもの又は幻想狂想曲乃至描寫曲といふものを聽く時に羽化登仙の想、欣喜雀躍の想、限りなき悲痛の想を感ぜざる譯では無いが、又一面に於て驕奢妖麗そして壽々しいけばけばしい餘りに誇張的な餘りに强烈濃厚な氣分の壓迫に目も肩が凝るのを免れない、私は曾て鈴木のぶ子の獨唱『愛人のもとへ』を聽いた時にベツオールド夫人の獨唱シユーベルト作のミニヨンの歌を聽いた時に其の巧みなる表情と豐艶なる聲に恍惚としたのであつたが私の麗しい涙は遂に滴れなかつた。

愛する時は接吻は更なり悲極まりては其の肉を舐り其の鮮血を吸ふに至らざれば飽く事を知らず一度び悲めば慟哭山を崩し涙陸を埋め怒つては忽ち萬人の精靈を立ち所に傑殺し苦悶爲めに大地を搖ハーブを合せ戀の爲めには美女幾百の精靈を屠つて血の潮に浴みする體の構想は壯大には相違な熱烈には相違ないが、快樂も悲痛も味ふべき餘裕があつてこそ嬉しくもあり悲しくもあるものと思ふ、極端なる歡樂は苦痛に歸し極端なる愛は憎惡を感せしめ、極端なる悲みは滑稽化しまいかと思はれる、泰西の名曲を聽く每に私は常に此の感が湧き起るのを覺ゆるのである

講談　幕末　狂怒亂心

(147)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

「ねッ！この兒ばかりは、どうあつても私が……」

「何をッ！」

ぐつと懐中に手を差し込んで引奪らうとするそれをとられまいとお君は爭つた爭ひながらひよろ〳〵一間許りもつれ合つてよろける途端に二人諸共に地上に尻餅をついた勘一は父の手に移つて又ぎあ〳〵と泣く

廓の夜には涙がない、何處かで面白そうな騷ぎ唄がさんざこ〳〵と太鼓に乘つて聞えて來る。

＊＊＊

勘太郎は夢心地その夜は何處をさまようともなく途上に明かした、ふら〳〵と我家に戻る馬道でばつたり出會した丁稚がある

「だい〳〵そこへ行くのは清松ではないかコレ清松待て！」

行き過ぎてから勘太郎が呼び止めると振りかへつて

「おや若旦那で御座いますか」と驚いた風で駈け戻つた是が實家の藤屋に使はれてゐる小僧の清松であつた手に灯の消えた弓張り提灯と狀箱とを持つてゐる

「清松」と優しく呼んで

「お前まだ實家にゐるのか」

と訊ねる勘太郎の顏を、清松は下から見上げて答もなくシク〳〵と泣き出した

「どうして泣く？もう居ないのか」

「いゝえどつこへも行きやしません、俺りや若旦那の顏を見たら懐かしくつて、懐かしくつて」とすゝり上げる

「なに懐かしい？嬉しいことを言ふぢやねえか」

と勘太郎は眼を瞬かせ乍ら

「清松久し振りだつたな、今年は何歳だつけかの、た

そう〳〵丁度十四だ、道理で大層背丈が伸びて大きくなつたよ」

と頭を撫でてやりながら

「實家は變つたこともはないかおとつさんもおつかさんもお揃ひでたつしやだらうなあ――」

と云ふと首を振つて

「イ、エ、大變りだ」

「何大變だ？どう變つた？」

勘太郎の眼は光かつた

「若旦那あなたは御存知ないでせう、アノ大旦那はねね」

「うむおとつさんがどうかなされたか」

「大病でもうむづかしいんですよ」

「えゝッ！」勘太郎は愕然

「そ、そりや眞實かな、何の病だ、何時から惡いのだ」

と急ぎ込んだ調子で尋ねたが聲は不安に曇りを帶びてきよと〳〵と動く

「あなたが出なさつてから間もなく床に就いたんです私は傍り側に行つたことはないから詳しいことは知りませんが足腰も立たなければ手足も利かないんだそうです、全然ヨイ〳〵の樣に物を言ふことも出來ないんだとさ」

「ね、それでは中風か、へエー」と太息を吐いた

「ぢや清松、御親類は申す迄もなくお雪も神田の屋敷から下がつて御看病してゐるだらうなあ」

「イ、エ是からです」

「何、是から……では今まで知らさずにゐたのか？」

「はい昨夜晩くなつてから方々へ通知の手紙を持つて行く樣に番頭さんから皆んなに云ひ付けたんですそれで手分けをして今朝暗い中にとび出したんで此の通り提灯持參ですが、私は山谷堀の越前屋さんへ出かけるところで」

「では、昨日邊りから急に病人の樣子が變つたのだな」

「いゝね、どうから變つてゐんで三日も前からビク〳〵の虫の息でゐなさるんで」

「それを今迄うつちやつて置いたのか」

「そうなんでせう、そうと見ねます」

「ふ、不埒な奴だな」

御試食なさいましたか
末廣の鳥料理!!!
新年會
大小宴會
相變らず末廣を御利用下さい
◎座敷廻り女中入用
割烹　末廣
電話 [illegible] 二

福引景品付
四丁目聯合大賣出し
期日　舊十二月廿一日（一月卅一日）より　舊十二月廿八日（二月七日）まで　八日間
引換場所　四丁目和泉屋旅館
景品種目　桐簞笥、反物、其他豐富
御買上高　一圓毎に福引券一枚呈上

掉尾の大奉仕
二月一日（舊廿二日）ヨリ五日間
歳暮福引大賣出し
御仕着さ御歲暮の御用は是非三井へ
御祝儀物御仕度品は豐富取揃へてあります
格安反物大見切物（三割安より半額）
吉凶御引物は特に廉賣奉仕致します
御贈答ニハ三井ノ商品券を
御買上金　五圓毎ニ福引券呈上
ショール新柄金一圓五十錢ヨリ
足袋特賣〔白キャラコ　十五錢　黑朱子　廿五錢　絹天女物　二十錢〕
主婦の友三秀會特選　新柄帶側陳列　新館二階
福引景品　特等 桐タンス　一等 高貴織　二等 新銘仙　三等 フトン縞　四等 羽織紐　五等 名入手拭　空籤ナシ
磐城平　三井呉服店　電話三八　七五一番

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、た遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

評判ノよい專門藥
心臟圓　一圓　二圓　三圓
平五　山野邊藥局

貸地廣告
古鍛冶拾番地（縣社下天理教會東材木店跡）
病院商店工場並ニ高級住宅地トシテ最適地　貳百五拾坪
右極安値永久ニ御貸致マス（分割モ可）
御希望ノ方ハ電話四四又御來談下サイ借地人本位ニ御相談シマス
平町古鍛冶拾番地
阿康藥店……櫻山　電話四四番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科　外科專門
平南町　上田外科醫院　電話一二九

內科、小兒科（院長毎日療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄次
內科部長　中西林藏
外科一般
外科部長　醫學士　氏家憲介
毎日曜手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科、女子泌尿科
產婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
×光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一 衛生試驛所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一 病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一 救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
看護婦見習募集
磐城　共濟病院　本町電話六四二番

電燈より接續してすぐ寫る　家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器　八〇、〇〇
撮影器　六五、〇〇
フヒルム　一本　二、〇〇　二、五〇
生フヒルム　一本　一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目　パテーベビー社代理店　西村屋藥舖　電話三番

優秀なる最新型腕卷時計
◎クローム側　白金代用側
十型　十石入アンクル　七圓五十錢
十型　十五石入上アンクル　拾壹圓
九型　十石入上アンクル　九圓五十錢
九型　十五石入上アンクル　拾三圓
八型　十五石入アンクル　拾貳圓
八形　十五石極上アンクル　拾五圓
◎十八金側（金質保証）
十型　十石入上アンクル　拾貳圓五十錢
十型　十五石入上アンクル　拾八圓五十錢
九型　十五石入上アンクル　拾五圓
八型　十五石入上ヤンクル　拾七圓
平町五丁目（釜屋商店前）
鐵道省御用　金光堂時計院　電話七二六番

平署管内の人口 年に九千人の増
總計十四萬一千五百名 女より男が多い

石城郡地方は炭礦の不振、惡疫の流行、大銀行の破綻農作物の凶作等々が原因となして經濟的の行詰まりから不景氣のドン底にあり平町に於ける空家の激增、炭礦勞働者の激減、失業者の增加等は克く其の間の事情を物語つてゐるが平署に於て昨年十二月三十一日現在で調査した同署管内に於ける人口動態を見ると、素晴らしい勢ひに增加して來た從來のそれとは比較にはならず、前年に比較して約九千名の增を見てゐるだけである此の增加は自然的增加であつて戸數は僅九百戸が增加したのみで平町の如きは却て戸數が減少を示してゐる狀態である、同署管内には平町外三町十九ケ村があり戸數は二萬八千百十五戸、人口は十四萬一千四百三十二名だが、人口の中本籍者が男三萬一千百五十九名、女三萬一千三百九十六名、寄留者が男四萬九百二十二名、女三萬七千九百九十一名で本籍者より寄留者の方が多く、尚ほ男女を比較して見ると男が合計七萬二千八十一名女が合計六萬九千三百五十九名で男の方が二千七百二十四名多くなつてゐる

貸家全部に對し 家賃二割値下
一般から激賞される 加藤氏の義擧

平町は數年來打ち續く不景氣に祟られ或は銀行休業等に近因し店舖を閉鎖するものや甚だしきは夜逃げをなすもの等すら出て隨つて借家人にして家賃の滯納勝ちなるもまた最近各所に現はれ店立て立ち退き等のことさい珍らしくない有樣となり平町の大家主である加藤丈夫氏の如き持家百數十戸に對し昨年度中の家賃の未收入約三萬圓に達し家主の立場も察するに餘りあるも、あるが加藤丈夫氏は借家人保護の見地から二十九日高橋龜松、北城直兩氏外有志十七名を水戸屋旅館に會同を需め二月一日より貸家全体に亘り平均約二割方、家賃値下げを斷行すべき旨を宣言したが時節柄家主に對し兎角借家人側から批難の聲を聞くとき加藤氏の義擧は借家人は勿論一般から激賞されてゐる

消防の話（二）
平消防組頭　井上茂作

近時我國の消防は著るしく向上發展致しまして組數一萬八百組人員百八十萬にあります組員はいづれも十八才以上の生氣溌溂たる青年であつて在郷軍人が多數まじつて居ります國に一朝事あれば出でゝ兵事に身を委ね常に各自家業の傍消防手として水火と鬪ひ人命、財寶とを救護するのであります。

◇

然るに世間今尚消防を理解せず火事でもなければ忘れ勝で甚だ力の入れ方が足らぬ地方のある事を遺憾とするのであります火事には豫告はありません何時如何なる時に襲へ來るや知る事が出來ません何時も突發的であります不意打であります故に消防の事は常に完備して置かなければならんのであります、火事は日曜も祭日もありません佛壇の線香一本も神棚の蠟燭を亦一本のマッチも煙草の吸殼も火事の原因となるのであります消防の設備を怠るものは恰も戸締を用心せずして泥棒に這入られ物を奪はるゝ家と同じやうに禍を自ら招ぐ事となります必ず油斷してはなりません故に私は人間共同の大敵の火難を免れんとするならば先づ國民全體が防火思想を向上し消防事業たる消火の設備を完全せしめなければならんと云ふことを高唱するのであります

◇

我國の火災損害高は毎年少い時に於ても一億八千萬多い時は二億四千萬でありまして即ち國費の一割乃至一割四分弱の富を空しく灰に化し煙りと變じて居るのであります、これを内地人六千萬として二億四千萬を割當れば一人當り四圓の損害となるのであります更に之を外國と比較すれば英國は一圓四十四錢佛國九十八錢獨逸五十六錢オーストリー五十錢伊太利も五十錢でありまして獨り米國は十圓四錢となつて一人當りより現れば米國は世界一で日本は第二位にあたるやうに見へますが其の實は日本は遺憾ながら第一位となるのであります。

◇

何となれば彼れと我とは富の程度に非常に違ひがあるのである即ち試みに述ぶれば一人當りの富は英國は七千九百九十圓、米國六千五百七十八圓、佛國千八百二十三圓、ベルギー三千六十九圓、獨逸二千七百二十六圓、伊太利一千六百三十三圓、日本は一千五百三十九圓の數字となるのでありまして一番富が少いのであるから年寄りでも赤ン坊でも四圓づゝの火災損害を負擔する事となり世界一の損害高となる次第である故に今にして火災損害率を減少する方法を講じなければ火災亡國となりはせぬかと叫ばるゝ事に至つたのであります元來我國の富の程度の餘りに低きは心細き事でありますか反比例に損害の巨額なるに驚くの外ないのであります。

水産學校の 建設運動
郡下町村長が

石城郡内に水産學校の設立が必要な事は早くから叫ばれ現に四倉町、小名濱町に於ては小學校に水産科を併置して漁獵、海洋、氣象、船舶その他水産に關係ある課目を教授しつゝあるが成績は極めて良好で益々内容を充實にして水産教育の完備を圖る必要があるので小名濱、四倉兩水産補習學校ではそれぐ新學期を前に控て準備をなしてゐる、水産教育については嘗に小名濱の水産試驗場に講習生を置いて教育をなした事があつた、此の講習生にしろ、小學校にある補習校生にしろ卒業しても何等の資格もない處から之が科目を嫌ふ者もあり水産物は本縣の主要物産であり、今後改善發達を圖る點も多くあるので石城郡内に縣立の水産學校を設立すべしとの意見が濟々通り各町村議有志者の間に叫ばれて來たので近く何等かの方法で縣への運動が起きるものと見られてゐる

内郷と飯野村が 負擔過重を叫ぶ
どうも危しくなつた 新川の改修工事

平町外二ケ村水害豫防組合では去る大正二年組合設立以來十餘年既に上流の内郷村地内における新川は改修を終り三年度分から平町地内の改修工事を行なふべくなつたが工費は今後完成迄に十萬餘圓を要し殘るは町地内のみでもある所から内郷飯野村側では早くも負擔苛重を叫び出し初め現在のやうに反別割一圓の組合費を徵收した外勞力寄付を加ふる時は一反步二圓八十錢の負擔となり到底堪らないと稱してゐるが從つて來る二月十五日組合議員改選後における四年度豫算は如何にして編成するか成行きを注目されてゐる

植田町で 街燈設備
植電の奮發

植田町大字植田では夜の街の燈火が町の消長に干係ありもし御大典記念　街燈點火の準備をしてゐたが先づ字上中町が卒先植電會社と交渉を開くや字金畑町、中町、臺町などもこれに促進され町内の協議を經て同會社に交渉をした結果會社でも同町將來のためとあつて同町全部で約五十燈を目算をたて電燈料金を特に半額即ち百ワット一圓二十錢とし一本七十圓程の鐵柱及工費一切を會社持といふ勉強振りに各町内共やすくと纒まり既に金畑町十中町五上中町十二の工事は終了し臺町上町なども續いて工事に着手する運びとなつてをり省上町も五燈を確定した模樣であれば同町は完全に街燈照明裝置が近日中完成を見るべく面目を一新する事となつた

名勝天然記念に 二つの候補地
夏井の兜塚と金澤址 郡下の史蹟調査

石城郡内に散在する史蹟上名勝天然記念物は尠くないが縣史蹟名勝天然記念物調査會では之が保存を圖らしむるため種々調査し文部省に向つて保存指定方を促進してゐたが郡内に於ける四年度より史蹟名勝天然記念物指定候補地は夏井村大字荒田目字甲塚地内の兜塚及び植田町金澤址の二個所であるが調査が終了すれば保存費を計上され文部省の指定の實現さる筈

貰つた名刺を利用し 證券の無理勸誘
宿料も踏み倒して 平署に檢擧さる

仙臺市元材木町一〇〇旭證券株式會社外交員吉田金治（三六）佐々木貞男（三二）清水正之助（三四）阿部東秀（三四）の四名は去る二十七日より平町白銀町宮城館方に宿泊してゐたが同日　町役場に至り證券募集の勸誘中吏員に名刺を貰つた、を奇貨としこれを利用して平町々會議員や區長を訪問し募集してゐたことが平署に發覺され今三十日檢擧され取調べを受けてゐるが四倉町停車場前泉屋事綠川東吉方より宿泊料八圓八十錢を踏倒した事も發覺した

三丁目聯合 福引賣出し
大奮發の景品

中町の舊曆歳末、新年賣出しは何れも大馬力をかけ一齊に賣出しを開始したが三丁目の聯合大賣出しは舊臘十二月二十一日より七日間一年一度の奉仕的試みとして福引景品付大賣出しを初めることゝなり加盟商店は何れも腕によりをかけてゐるか例により一圓毎に福引券を呈上し一等桐箪笥、上等布團一組、二等丸帶、お召反物、三等鏡臺、座ぶとん、鹽引一俵、以下六等まで福引券引換所は丸又商店非常な前人氣である

平の各社總會
平町株式會社磐城銀行、磐城實業銀行、平銀行、磐城建物會社株主總會は二十七日午前十時から夫れぐ總會を開催上半期決算について承認を求めた

火元に同情
責任感の負傷

石城郡澤渡村中寺草野政治は所有の山林内で雇へ木り野澤爲治（六四）が去る二十二日正午過ぎたき火の不始末から山火事を起した時自分の山から失火した責任感から猛火に飛込み活動して顔面その他に大火傷を負ふたので村民から非常に同情されてゐる

壓倒的に 政友優勢
石城貴院選擧

貴族院議員選擧も餘す處十日となり兩派とも猛運動を開始したが佐藤本縣支部幹事長は二十九日來平有力者と會見種々協議する處あり三十日原の町に赴いたが石城方部に於ける十五名の有權者中大中睦四郎氏が民政派に屬する以外はいづれも政友派なので全然民政派は手も足も出ぬ有樣である

預つた染物品を 持つた儘逃げる
善六商店の外交員を 平署に訴ひ出る

中町大町德岡總本店東北出張所京染業鎌田善六方外交員宮城縣桃生郡鹿又村生れ淺野京市郎（三〇）は舊臘中宮城縣本吉郡志津川町字鹽入八八堀内とめよ外二名より染替へてやると稱し御召物一反小供縮緬四丈金沙帶一筋外一點見積り九十圓餘を受け取つたまゝ姿を晦まして何の返事もないので前記とめより平署に向つて取調べ方を依賴してきたので署では善六を呼出して取調中である

小名濱港の 補助申請
縣から申請

石城郡小名濱の築港計劃は議會の承認を得れば愈よ明年度から工事に着手されるの、縣では二十九日内務省に對し總工費三百八十八萬圓より埋立地三十二萬圓を除きたる三百五十六萬圓に對し二分の一百七十八萬圓の國庫補助交附方を申請した

平牛乳組合
平署管内牛乳組合の春季總會は二十七日午後一時から平署樓上に開催し昭和二年度決算四年度豫算を附議し午後三時散會した

四丁目賣出
福引景品の山

平町四丁目聯合大賣出しは明三十一日より二月七日まで八日間大々的に開始する事となつたが買上一圓毎に福引券二枚を呈上し和泉屋旅館に於て引換の筈　景品は例により桐箪笥反物その他豐富なる景品が山の如く人氣をひいてゐる

着荷激增
舊正賣出の爲 平驛の貨物

小貨物取扱所に於ける昨今の貨物の動きは舊正月を目前に二十八日頃から平均六百噸位の着貨物を見て非常多忙を極めてゐるが平町各商店では不景氣に貨物の仕入れを手控えてゐるため間際になつて急に仕入る傾向があるので日に增し着荷の增加を豫想されてゐる

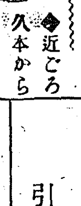
持ち直した米價
農家の賣り澁りから 農村やつと安堵

石城郡地方の米價は昨秋九月上旬來崩落一途にあつたが今月上旬に入り各種五、六十錢方の高値を示し恢復し生産者を喜ばせたが中旬に及んで忽ちまたぐ下落し持米者を一方ならず悲觀された然るところ最近漸く中央市場の影響に伴つて二十六日現在平均市況によると産米二十五圓十一錢移出玄米二十七圓四十錢同白米三十四圓五錢にして前旬市況に比すると産米三十九錢移出玄米五十一錢白米二十五錢の高値を示したこの原因は勿論中央期米の昂騰によるものであるが續々安値に各農家が賣り控る事も大なる因と見られてゐる

豐間の漁獲

石城郡豐間村に於ける第四期の（十一月一日より十二月三十一日まで）の漁獲高は四萬八百貫八萬五千五百六十圓と之が種類別に示せば左の如し

鮫	八、四〇〇圓
比目魚	四、四〇〇
鰈	六八、〇〇〇
鰊	四、七六〇
合計	八五、五六〇



◆近ごろ久本からたひろめをしようとしてゐる「さよ子」を秋田産の挽馬のやうな牽引力のある女だと吹聽したことに抗議の申込かあつた、ソレは秋田産ではなく純粹の江戸も本場の淺草で「もんぜき樣」の御近所の産と間違ひは無いとの由以上訂正すること仍つて件の如しか◆所がた隣りの開花で抱へる妓とはドレも〜女角力といふ型ばかり體量十七八貫を下らない代物ばかりだ、お蔭で一日の飯米費消高七升八合、ナル程、ヨクも喰つたりフクレたり、オイ何んだい航路とは……解らずやだネ舟の行く路なんだよ

一日一人
山崎登氏

植田物産專務の山崎さんは郡南野球クラブの總大將でテニスもやれば球撞きも結好、運動競技にかけては特殊の優秀な技能を持つてゐるとの事である、そこで季節もののスキーについて氏の卓見を叩くと『スキーといふ奴は之ゝばかりが能ちやない、雪國に住むものは雪に親しむ、雪を恐れなくなる訓練が大切だ。雪の上を歩くことによつて吾々は健康を增進し雪といふものゝ脅威を感じなくなる、轉ぶのなんか問題ぢやない轉ぶことも又スキーの愉快を深める一要素さ、それは主觀的な觀點に於て非常に愉快なものだ』こゝまで來ることなんか第二義第三義の末の末だよ！之を稱して山崎式論理學的スキー術と謂ふ

田町睦會聯合

歲末福引大賣出し
新二月一日ヨリ七日間
お買上金高 金一壹圓毎ニ 福引券一枚進呈

景品種目
特等（別製）桐箪笥
一等 桐タンス
二等（九升樽）醬油
三等 メリヤスシャツ
四等 桐下駄
五等以下七等マデ實用品豐富です
ぜとた買上げ下さい

引換場所 福住旅館

百人一首一室一句

これやこの
老へも若かきも正札堂
よらぬ者なし　買はぬ者なし

俺が服見よ、自慢ぢやないが
かわぬ者ない（誰も好いてる）正札堂
アラ〜

物は試めしよ、正札堂へ
來てよ見さんせい服かへに　アラ〜

薄利多賣はこの店の主義
不景氣なかせの福の神
アラ福の神

謹告

私儀磐城自動車商會に勤務中は公私多大の御愛顧を蒙むり候段、今回同商會を辭し今回に於て特に優秀車を使用し獨立開業を致す事と相成り候間今後共引續き御愛顧の程伏して懇願仕り候、營業所其の他は不日逐つて御知らせ申上ぐべく略儀紙上を以て御挨拶まで如斯に御座候

昭和四年一月三十一日

平町材木町 澤正路

當商會外交主任澤正路氏今回自動車業獨立營業開始の運びと相成り當商會を退く事と相成り候段謹告候也

合資會社 磐城自動車商會

毛糸

防寒用には
丈夫で暖い
英國製毛糸
一オンス 十九錢 二十五錢

手藝材料
ハシモトヤ糸店
平町田町

特賣!!

たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領

醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番